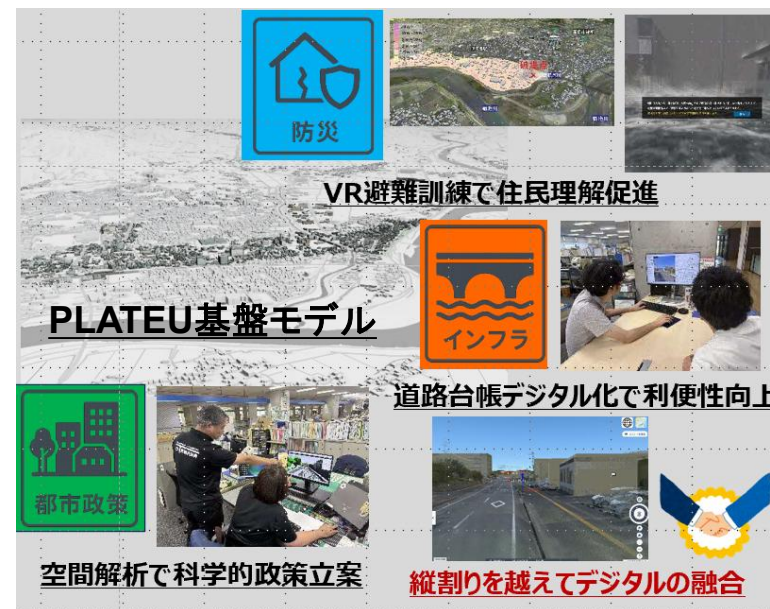


16. 玉名発！全国へ波及するDX実装モデル

地方公共団体名	熊本県玉名市
取組主体	熊本県玉名市

【取組概要】

「Project PLATEAU」を基盤に、防災・インフラ管理・都市政策を統合した“小規模自治体発DXモデル”を全国に先駆けて実装した。防災ではVR避難や浸水シミュレーションにより、市民の直感的理解と行動変容を実現。インフラでは点群データを活用し、道路台帳をデジタル化・公開することで利便性を大幅に向上。都市政策では空間解析を導入し、EBPMによる科学的な政策立案を推進。限られた人員・予算で多分野を融合し、再現性・持続性・波及性を兼ね備えた全国展開可能な先導モデルである。



- 防災・インフラ・都市政策の3Dモデルを統合して成果を可視化することで、従来の縦割りを打破し、都市全体を俯瞰する仕組みを現場主導で構築した。小規模自治体でも持続可能なDXが可能であることを証明し、都市経営に直結する実効性を発揮した。
- PLATEAUを、防災VR、避難行動シミュレーション、MMS点群、センサー監視、都市政策への空間解析へと展開することで、住民にはリスク可視化や仮想避難体験を提供し、職員には政策説明や意思決定の共通基盤として定着させ、地方都市における3D都市モデルの先進的DX事例を示した。
- データ整備から利活用までを現場主導で体系化し、専門人材が不在の自治体でも導入可能な仕組みを確立している。さらに、点群・WebGIS・3D共有などの技術的優位性も有している。既に近隣自治体と協働し、講演や技術共有を通じて全国展開を進行しており、都市規模を問わない波及性の高さが確認できる。